



**今年の教区の目標**  
 ゆいまーるの心で  
 あらゆる絆を深めよう！

〒902-0067 那覇市安里3-7-2  
 カトリック那覇教区本部  
 TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474  
 発行人 W.F.バートン司教 1部40円  
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2021年8月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第753号 (8月号)

## 2021平和旬間 8月6日～15日 日本カトリック司教協議会会長談話

すべてのいのちを守る、平和をつくる。



高見三明大司教

「すべてのいのちを守るため」。これは二〇一九年十一月の教皇訪日のテーマでした。今年も平和旬間を迎えて、平和について考え、平和のために祈り、行動するに当たって、「すべてのいのちを守る」ことこそ平和への道であり、平和をつくるという確信を皆で共有したいと思います。

今、世界各地での武力紛争や難民問題などに加えて、「新しい冷戦」とも呼ばれる米中間の対立が国際社会の安定と政治や経済の分野に少なからぬ悪影響を与えつつあります。諸国間には、常によりよい関係構築のために忍耐強い対話の努力を続けるよう強く願わずにはいられません。

また、二〇二一年一月二十二日をもって「核兵器禁止条約」が発効したにもかかわらず、核保有国と、日本を含む、核の傘の下にある国々は、この

条約は現実的でないという理由で認めようとしません。

唯一の被爆国である日本こそ真つ先に批准すべきだと思います。核保有国も批准せざるを得なくなるまで、批准国が一国でも増えるように祈り、かつ働きかけたいと思います。諸国間の対立も大量破壊兵器も平和を脅かすからです。また、ミャンマーやアフガニスタンほかの国々で、逸脱した権力と武力にさらされた人々が人権を無視され、平和とはほど遠い生活を強いられています。国の安全と繁栄のためという大義名分のもとで一人ひとりのいのちがあまりにもなおざりにされているのではないでしょうか。

新型コロナウイルスの世界的流行(パンデミック)の結果、七月半ば現在で一億八千九百万人以上が感染し、四百万人以上が死亡、無数の人々が困窮に追い込まれています。残念ながら、感染者とその関係者だけでなく、医療従事者まで差別や偏見の対象になっています。ワクチンの配分も貧しい国々は後回しにされているため、いのち

の危険が増し、社会情勢も不穏になる一方です。皆がそれぞれ苦しんでいるのです。互いに理解し助け支え合い、富める強い国は貧しい人々を助けるべきです。

わたしたちは数限りない人々のおかげで生活ができています。自分だけでなくほかの人のいのちをも守らなければなりません。そのためには、教皇とイスラームの指導者(大イマーム)との共同文書『世界平和のための人類のきょうだい愛』(二〇一九年二月四日)および教皇回勅『兄弟の皆さん』(二〇二〇年十月三日)の精神を共有し、すべての人のいのちの尊厳を等しく尊重し、兄弟姉妹として相互の信頼を深めていく必要があります。

どのような自然環境、どのような社会環境にあっても、すべてのいのちを守ることを最優先し、そうすることによってこそ平和をつくっていきたいものです。いのちは、個々のいのちだけでなくいのちのつながりをも意味すると考えるべきです。

ですから、一つ一つのいのち、一人ひとりのいのちを守ることは、いのちといのちのつながりを守ることであり、それは同時に個々のいのちを

守ることになります。そして、個々のいのちが充足し、いのちといのちの間に調和があり、すべてのいのちが幸福に満たされる状態こそが平和なのです。

日本カトリック司教協議会会長  
 カトリック長崎大司教  
 高見三明

**スローガン** 沖縄から世界へ広げよう平和の祈り

**第31回** 祈りと平和の集い

■日 時：8月15日(日)午後1時 ■場 所：沖縄平和祈念堂(摩文仁)

主 催 沖縄宗教者の会

## Caritas Naha Committee Project Bunka Center 「Yuimaru BOX」

Caritas Naha Committee is in its 10th month since it began last November of 2020. The project of Yuimaru Moving car going from one parish to another receiving donations either monetary or in kind was made possible because of the warm welcome of the Parish priests and the Faithful of the churches we had visited. The donations we have gathered have helped some foreign students, some homeless people and other parishioners known to some parish members who were also in need of food support. And ongoing assistance to the food drive project of “YuiMaru No Kai” a citizens group distributing foods at Makishi Park to those who are in need.

At present, we stopped going to Parishes since Okinawa has been under the declaration of state of emergency, but we are still continuously receiving donations and reaching out to our brother and sisters in the spirit of Yuimaru. We wish to resume the “Yuimaru Moving Car” once the declaration is lifted in Okinawa. In case, you know some people in your community, who are still in need of Food support, don't hesitate to bring them to the Bunka Center or introduce them to us.

### カリタス那覇文化センターゆいまるBOXについて カリタス那覇委員会より

皆さんこんにちは、私達カリタス那覇委員会が2020年11月に発足して10ヶ月を迎えようとしています。「ゆいまるMoving Carプロジェクト」として小教区を回り、神父様をはじめ多くの信徒の方々に寄付金や食料支援をいただきました。ありがとうございました。皆様からいただきました寄付金や食料品は日本語学校で学んでいる外国の学生さんやホームレスの方、また小さな市民団体「ゆいまるの会」に支援をしていますが、まだまだ行き届いていないのが現状です。今はまだコロナ禍で緊急事態宣言下にあり思うように活動はできていませんが、イチャリパチャデー、ゆいまるの心で奉仕活動を通して信徒間の絆・地域の方との絆を深めていけたら幸いです。

現在カリタス那覇ゆいまるBOXはカトリック文化センターを拠点としており、食料物品の募集と同時に支援を必要とされている方への提供もしておりますので、どうぞお気軽にお越し下さい。

コロナ感染拡大が落ち着きましたら、また小教区へゆいまるMoving Carでお邪魔したいと思っておりますのでご協力お願いいたします。





# 賢い僕とは

ピーター・チャネル・チェ神父

コザ教会 主任司祭

座ってください」と教えていただきました。そのようにしましたが、まだ疲れが取れませんが、同じ質問をすると、司教様は神父に言われました。「今度は、帰って毎日二時間、ご聖体の前に座ってください」と。



この話を通して司教様は、何が一番大切かということを教えてくださったと思います。二つ目は謙遜な僕としてみなに仕えることです。マルコによる福音書(十章・45節)によると、「イエス様が来られたのは仕えられるためではなく、みなに仕えるためであり、また、多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」と教えられています。聖木曜日の最後の晩餐のミサの中で洗足式を行う習慣があります。洗足の習慣はとも大切です。この習慣を通して、イエス様と同じように、謙遜な僕としてみなに仕える愛の姿が示されているからです。そして、お互いの愛を持ってみなに仕えることによって、私たち信者がイエス様との強い関わりと交わりが持てるのです。

信者である私たちはみなキリストに従って生きる者です。ですから、キリストのように謙遜な心でみなに仕えるのは、私たちの主な使命です。そのために教皇様はメッセージを作る時、必ず自分の名前の後にラテン語で「Servus servorum」と書かれています。「Servus servorum」は英語では「Servant of servants」日本語では「僕たちの僕」という意味です。この言葉によって教皇様は自分が僕であるということをお忘れしないで、その、僕とすることをみなに伝えておられるのです。

みなさん、謙遜な教皇様のようにな、自分が僕であるということをお忘れしないで、みなに仕えることができるよう祈り、努めましょう。ルカによる福音書(十七章・7節〜10節)によると、「わたしたちは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです」と教えられています。私たちはその僕になるようにキリストから呼ばれています。そして、謙遜なマリヤ様がそうであったように、そこに幸せが約束されているのです。みなさん、これからもみんなといっしょに、神様と教会によく仕えるように がんばりましょう。

聖書の言葉(聖書の神学的な考え)によると、イエス様は神の忠実な僕であります。そして、キリストに従って生きる私たちは、みな神の僕と呼ばれています。では、本当に賢い僕とはどんな人か、ということはいっしょに考えてみたいと思います。ここで一つの話をみなさんと分かち合いたいと思います。それは忙しい神父の話です。ある神父はいつも疲れているため元気がありませんでした。そこで、司教様に会って相談しました。「司教様、私はとても忙しく、とても疲れています。どうしたらいいですか」と聞きました。司教様は「今日から、帰ったら毎日一時間、ご聖体の前に

それは、忙しい毎日から少し離れ、ご聖体の前で静かに祈り、ミサに与って神さまと対話し、自分の生き方を見つめ直す、ということだと思います。ミサに与り、心の糧としてみ言葉とご聖体をいただく恵みによって、休みと癒しだけではなく、心の平安のお恵みを与えられ、良く働くことが出来るようにということだと思います。この司教様の話は私たち信者

に二つのことを教えてくださっています。一つは祈ることです。賢い僕とは何よりも良く祈る人だと言えます。しかし、今の私たちの毎日の生活では、特に最近の大変な時期、祈る事が難しいのではないかと思います。しかしみなさん、このような時だからこそ、祈ること、そして「ミサに与ることが、心の糧だけでなく、生きる力とお恵みを頂き、力強い支えになると思います。

CATHOLIC DIOCESE OF NAHA, OKINAWA JAPAN  
KOZA CATHOLIC PARISH  
50 Anniversary  
カトリック那覇教区 コザ聖家族教会  
創立 50 周年記念

私たちは一つの家族

コザ教会 50 周年記念 DVD が完成いたしました！  
教区内の各小教区へ 50 周年記念 DVD を郵送させていただきます。ご視聴お楽しみください。

## 2021年7月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2021年7月6日(火) 10:00～12:30 緊急事態宣言中につき、2回目の ZOOM 会議

### 1. 報告及び連絡事項：司会と始めの祈りはマキシム神父が担当。

- ・前回(6月会議)の議事録の確認を新田が行い承認された。また、6月18日(火)に行われた臨時のズーム会議については事務局長の津波古が報告を行った。臨時会議では、公開ミサの再開について討議がなされ、学校の再開と歩調を合わせて、ミサの再開をしていくことが確認された。
- ・6月23日沖縄慰霊の日のミサについて報告が行われた。主会場となった安里教会では押川司教が主式してミサが行われ、正午に黙祷を捧げたのちウェイン司教のメッセージが朗読され、散会となったことが主任のフランシス神父から報告された。続いて与那原教会、真栄原教会、石垣教会、石川教会、開南教会、宮古島平良教会、読谷、具志川、首里、名護の各教会から慰霊の日のミサについて、主任司祭から分ち合いが行われた。また、教区に届けられた折鶴や教区女性の会が呼びかけて寄せられた折鶴が、平和委員会らの手で魂魄の塔に捧呈されたことも報告された。

### 2. 審議事項

- ・ウェイン司教の健康問題について、司教自身から報告があった。6月18日の臨時ズーム会議の後、司教の様子の変化に気付いたスタッフが直ぐに救急受診を手配、早期に入院治療が行われ、大過なく短期間の入院で済んだことが報告された。6月20日からの長崎教区司祭黙想会や6・23慰霊の日を控え、病院へ行くのは先に延ばしたいと思ったが、スタッフの強い勧めで直ぐに病院に行ったことが良かったこと、7月中はゆっくり療養したい旨司教から報告があった。押川名誉司教と司教総代のクレーパー神父が素早く動いて、教区の業務に支障が出ないように計らってくださったことに感謝が述べられた。また、津波古事務局長や押川名誉司教から、各司祭たちに、司教が1番心にかけているのは、司祭や信徒たちのことであるので、心配をかけないように小教区の業務に専心するよう要請があった。
- ・サマーキャンプについて、日帰りのピクニック案が担当のヨアキム神父から提出されていたが、各小教区の司祭たちへの聞き取りが行われ、コロナ禍の禍中でもあり、キャンプやピクニックは中止することとし、時期に囚われず、ZOOMなどを活用した取組みを計画して、小教区の垣根を超えて集い、分ち合えるようなプログラムの検討をお願いすることになった。
- ・感染対策について、ウェイン司教から教区としての考えが説明された。緊急事態宣言下であっても学校が休止にならないのであれば、基本的には教会も休止せず、万全な対策をした上で、気をつけて公開ミサ等はなされること、教区としてこれまで出した指示を遵守して取組むよう要請が行われた。
- ・マーシーさんから司教日程について、7月中の訪問等の予定はキャンセルされることが報告された。8月の公式訪問について、1日の与那原、15日の首里は予定に入っているが、緊急事態宣言の延長等によっては変更が出ることも合わせて報告された。
- ・その他
  - ・ブイ神父から全国典礼担当者会議が9月6、7日の日程で ZOOM 会議として行なわれるので、那覇教区からはブイ神父と新田および津波古事務局長が参加予定であることが報告された。
  - ・具志川教会のサニー神父から、小教区ニュースを作ったので見て欲しいと紹介が行われた。
  - ・津波古事務局長から、福岡の大神学校が企画している夏季講座への参加募集が再度行われた。ZOOMによる参加もできるが、レポートが科せられるので、意欲のある若者への呼びかけが司祭たちに要請された。
  - ・マキシム神父とクレーパー神父から、信徒であるが生活の困窮を理由に金銭の貸借を求め、トラブルとなっている事例が複数あることが報告され、司祭たちや信徒たちへも注意して欲しい旨要請が行われた。
  - ・次回司祭助祭拡大会議は2021年8月3日(火) 午前10時から12時、ZOOM 会議となることが報告された。

2021年6月9日 承認：ウェイン・フランシス・パーント司教 記録：新田 選

どれくらいの方が与那原教会に大里巡回教会(以下「大里教会」と略す)が付設されていることをご存知でしょうか。一九六五年大里古堅地区に創設された大里教会は、木造平屋建て切妻屋根に白い十字架が立ち、現在も汲み取り式トイレが外にある、小さな教会です。私にとって大里教会はプロテスタント教会からカトリック教会に改宗する契機となったたいせつな場所です。二〇〇八年ラサール神父は、初めて大里教会に出席した私が「プロテスタント教会で洗礼を受けました」と言う、「洗礼は一つ。カトリック偉そうにしちゃいけないよ!」とおっしゃってご聖体を授けてくださいました。その後一対一の勉強会をしてくださり、ゆるしの秘跡を授け、一年後の復活祭に、与那原教会で父の洗礼と一緒に私の堅信式(改宗式)を執行してく

## たて軸よこ軸 ポストコロナの大里巡回教会

与那原(大里)教会 川西 康裕

ださったのでした。私の改宗は分家から本家に戻ったという感覚です。そう感じられるのはラサール神父を通じてカトリック教会のひろさに触れたからだだと思います。私は改宗以前も以後も同じ神さまを信じ続け、かつて結婚式を挙げ、現在も妻が所属しているプロテスタント教会の方たちと親しい交わりを続けています。

さて、大里教会では第一、第三日曜日の午前十一時からミサが立てられています。二〇二〇年四月五日を最後に、コロナ感染予防のために休止状態が続いています。月二回の日曜日も閉まっているので、大里教会は一見死んでいるかのようです(神父様や有志の

信徒方が庭と御聖堂を綺麗にされています。正直に言います。私自身はミサの休止がありがたかったのです。介護の長期研修が休止決定からひと月後の日曜日ミサから入り、四か月ほど出席できなくなりました。研修は五か月空いてまた二か月続きました。今度は日曜日ではありませんでしたが、生活全体にせわしない感覚がありました。大里教会のミサは十人程度でしたから、私のような者でも、庭の草刈りや聖書朗読の奉仕をさせてくださるのですが、コロナ禍の一年間はこれが重荷で、休止によって救われたのでした。ところが、今年の四月八日、犬の散歩中に

右膝がバキッと鳴り、痛くて歩けなくなりました。半月板損傷でした。やむをえず介護の仕事を離れ、リハビリ治療中心の生活となりました。時間にゆとりができると、小さな仲間教会を懐かしむ気持ちが増えたのです。そして、ポストコロナにおける大里教会の再生を考えようと思いました。

まず、こう考えました。三つの修道院と共にある大きな与那原教会が、こんな近くに小さな大里教会を開く意味は何だろう。すぐに全員の顔と名前が一致し、深い交わりへと開かれた教会が存在することではないかと。小さな教会は小さいがゆえに価値があるのだと。次に、こう考えました。聖堂を教会のため

だけでなく地域のために使っていたかどうか。

二〇一九年大里教会の真向かいに大里北小学校が新築移転してきました。前年の与那原教会信徒総会で、私は大里北小学校の子どもたちのために大里教会を開きましようという提案をしました。その翌週大里教会で提案が承認されました。しかし、そのためにトイレを水洗化し、床を補修しなければなりません。水洗化は予算化されましたが、未着工です。また、実際に子どもたちのために教会を開くかどうかは司教のご裁可を仰ぐことになりましたが、まだお答えがありません。水洗化もご裁可もコロナ禍に紛れてしまった感があります。

ところで、南城市は夏休み前に玉城地区のふたつの小学校で放課後子ども教室を開く予定です。これは、いわゆる学童クラブを利用していない低学年の子どもたちの放課後の居場所づくりです。私も有償ボランティアとして参加します。今年玉城地区から始め、いずれ市内全域に広げたいそうです。学校内で開かなければならないわけではなく、地域の資源を活用し、地域の人たちが中心になって運営されるのが理想だそうです。とすれば、清潔で安全なトイレと床は必須ですが、大里教会は大里北小学校の放課後子ども教室として活用される途が開かれます。

近く、ふたりの孫がフランスから帰ってきます。上の孫は来年四月大里北小学校に入学する予定です。ふたりとも沖繩で生まれ、上の孫は与那原教会でウェイン神父(当時)から、下の孫は大里教会でラサール神父から、幼児洗礼を受けていただきました。彼らが小さな大里教会にも大きな与那原教会にも喜んで通ってくれますようにと祈ります。



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

## 洗礼おめでとございます

名護教会 (5月26日)

フランシスコ・ザビエル 與那嶺幸司

石垣教会 (7月4日)

ガブリエラ 奥久保虹稀  
ニケ

与那原教会 (7月18日)

マルガリタ(スコットランド) 棚原 有愛  
アリア

## 「辺野古新基地建設に、沖縄戦犠牲者の遺骨が収集されないまま眠る沖縄本島の土を使わないでください」

(日本カトリック正義と平和協議会)

アジア・太平洋戦争末期、沖縄は「本土の捨て石」となり、激しい地上戦が行われ、20万人以上の方々が亡くなりました。沖縄にはその時の犠牲者の遺骨が 2822 柱、今も収集されないまま、土中に眠っています(県営平和祈念公園 戦没者遺骨収集情報センター調べ 2021年 3月 26日現在)。いうまでもなくそこには、日本軍兵士のみならず、米軍兵士、朝鮮人日本軍兵士、子どもを含む大勢の民間人の遺骨も含まれています。特に激戦地となった沖縄本島南部地域から数多くの遺骨が集中して発見されています。

ところが現在辺野古の米軍新基地建設を進める政府は、基地予定地の大浦湾海域に極めて軟弱な地盤が発見されたことから、埋め立て工事用の大量の土砂が必要となり、昨年 4月、多くの遺骨の眠る沖縄県南部(糸満市、八重瀬町)の土を新基地建設工事に使う方針を打ち出しました。以来、沖縄県民、県内の 13 自治体、県議会は、遺骨の含まれる沖縄県内の土を基地建設に使わないよう求めています。

「遺骨」は、カトリックはもちろん、人の生き死にの問題に向き合う宗教にとっては切要なものです。それは、天に召されたその人自身を、この地上に記念させるものだからです。特に、沖縄での戦争で生命を失った方々にとっては、遺骨には、その国籍や立場を問わず、その方々が地上に残した無念の思い、あるいは平和への希望が宿存していることでしょう。遺族の方々にとっても、遺骨をそのように蔑ろに扱われることが、耐え難い理不尽であることを誰も否定はできません。

カトリック那覇教区ウエイン・バートン司教(日本カトリック正義と平和協議会担当司教)は、次のように訴えます。

沖縄では戦争犠牲者の遺骨を拾い集めて丁重に遺族に返す「沖縄戦遺骨収集ボランティア『ガマフヤー』」活動が行われています。信条の違いを超えて、多くの皆さんが協力しています。こうした活動は、人としての尊厳をとうとぶ人類共通の心情を表現すると同時に、(カトリックの)「肉体の聖性」の教えにも通じる大切な行いです。ところが最近、まだ多くの戦争犠牲者の遺骨が眠る場所から土砂を獲って、新しい基地をつくるための埋め立てに使おうとする計画が持ち上がっています。これは、戦争による犠牲者をさらに犠牲にして戦争に備える行為であり、遺骨にも及ぶ人間の尊厳と聖性に対するひどいさげすみです。それはまた、そのご遺族にとっても、これは耐え難いほど辛いことです。霊性ふかい沖縄の皆さんはこのような行為を決して許すことができません。

人間の尊厳をとうとぶすべての善意の人びとと手をたずさえて、カトリック教会の信条のあらわれとして、すべての人の遺体や遺骨がひとしく丁重に扱われ、その眠る場にも敬意が払われるよう努めましょう。  
(『南の光明』749号 2021.4.1より)

地上戦で多くの犠牲者を出し、今もなお日米の安全保障政策のために圧倒的な犠牲を強いられている沖縄において、戦争犠牲者の遺骨が基地建設のために土砂の一部として利用されるような、甚だしく非人道的な所業がさらになされることは、決してあってはなりません。日本カトリック正義と平和協議会は、日本政府と沖縄県玉城デニー知事にこのことを強く求めます。またカトリック信徒の皆様にも、この問題に強く関心を持ち、動向を注視していただきたく、ご理解とご協力をお願いいたします。

日本カトリック正義と平和協議会  
会 長 勝谷太治司教  
担当司教 ウエイン・バートン司教

### 第一回 「祖父母と高齢者のための世界祈願日」について

「祖父母と高齢者のための世界祈願日」の制定は、この数か月の世界各地における、パンデミックと高齢者世代の苦しみに特徴づけられたときに決定しました。高齢者がだれにも看取られないことなく亡くなり、葬儀すら出せないという話を聞いて、教会は強い痛みを感じてきました。

苦しむ人に寄り添えないということは、あわれみを示すというキリスト者の召命とは相いれません。この世界祈願日は、教会は十字架を背負うこうした人々から距離を置いたままでは決していられないことをあらためて知る機会となります。教皇が選んだ「わたしはいつもあなたとともにいる」というテーマは、パンデミックの間、そして訪れるはずの状況改善の時期に、すべての教会共同体は高齢者とともにい続けたいという望みの、はっきりとした表現です。

人々が落胆したり失望したりしないよう支える必要性に加えて、こうした複雑な状況(パンデミック、高齢者の新たな主導的役割の模索、家族関係の危機)から、教会は、集団で歩む旅に出て連帯をはぐくむ一つの単純な方法、つまり、祝うことを選択しました。高齢者と若者、すなわち、親と子、祖父母と孫、同

### 第1回「祖父母と高齢者のための世界祈願日」のための祈り



教皇フランシスコ

主よ、  
ともにいてくださるあなたの慰めに感謝いたします。  
孤独なときも、  
あなたはわたしの希望、信じる心のよりどころです。  
若いときから、あなたはわたしの岩、わたしのとりです。  
  
わたしに家族を与え、  
長寿をもって祝福して下さったことに感謝いたします。  
喜びのときも困難なときも感謝し、

人生ですでに実現した夢と、この先にある夢に感謝いたします。  
わたしを招いて下さった、この新たな実りの時に感謝いたします。

主よ、わたしの信仰を強め、  
わたしをあなたの平和の道具としてください。  
わたしよりも苦しんでいる人を抱き締めること、  
夢を見続けること、  
  
そして、新たな世代にあなたの素晴らしさを伝えることを教えてください。  
教皇フランシスコと教会を守り、導いてください。  
福音の光が地の果てにまで届きますように。  
主よ、あなたの霊を送り、世界を新たにしてください。  
パンデミックの嵐が静まり、  
貧しい人が慰められ、戦争を終わらせることができますように。  
弱いわたしを支え、  
世の終わりまで、  
日々、あなたがともにおられることを確信し、  
  
あなたが与えてくださる一瞬一瞬を  
精いっぱい生きることができるよう助けてください。  
アーメン。

じ家族に属している人もそうではない人も一緒になるのです。教会は、世代間の和解の必要性や、高齢者が経験する困難を認識していますが、だれの失敗も非難されることはありません。選ばれた方法は、ともに喜びに満ちた祝いのもつことです。

この世界祈願日を祝うためのさまざまなアイデアを紹介したいと思います。

この「祖父母と高齢者のための世界祈願日」の機会に、共同体の中で新型コロナウイルスによって亡くなった高齢者を追悼して、各小教区や教会組織がミサをさげることや、若者に、自分の祖母やとりわけ孤独な高齢者を訪問して、教皇メッセージを伝えるよう依頼することもできるでしょう。わたしたちが提案したことばかりで

なく、それぞれの教会共同体が創造性をもって、独自の状況においてこの日を祝う、最良の方法を見いだすことを確信しています。  
この「祖父母と高齢者のための世界祈願日」が、すべての人にとつて福音の喜びに満ちあふれた祝祭となりますように。

# 2021年のサマーキャンプについて

すちむがなき  
親愛なる子供たち、暑中お見舞い申し上げます。

昨年年度に引き続き、例年通りのサマーキャンプは今年も休止としました。このようなお知らせを二度も出さなくてはならないことは、本当に悔しく、深く心を痛めています。

一年もの期間を経てもなお、貴重な神との出会いの機会をまたもや提供できないということは、私たち大人の責任だと痛切に感じ、心よりお詫びいたします。パンデミックによることは言え、どのような状況に置かれても生き生きと歩みを前に進める努力ができるのが、神の似姿として人間の姿勢であり、いまを生きるすべての人がそのことを問われていると感じています。ですから、これまでのようにとはいかなくても、何らかの別な形の機会を提供する必要があります。を痛感しております。

八月二十二日までの緊急事態宣言下では、一堂に会しての宿泊や飲食を共にする従来のキャンプのかたちでは実施することが出来ません。でも、たとえば各小教区や地区単位で、感染予防対策をとりながら対面での小規模な集いやり

モートによる全体集会なども交えながら、ハイブリッドな集いも充分可能だと思えます。開催時期や開催時間にこだわらずに、可能な時期に可能な形で集いを開催できないかを模索し、共に努力したいと考えています。

成長著しい若い皆さんにとつての時間の重みは、年を重ねた世代が過ごす時間とは違います。同じ時を過ごしていても、心で感じることや感動の大きさが違うので、その時々のお出合いの重要性も大きく、それゆえ若い世代にとつての『今』は、先送りできない大切な時なのだと言えるでしょう。ですから、若者たちは立ち止まることなく、常に前向きに進むのだと思います。この若さというエネルギーは、社会を進展させます。明日への希望でもあります。私は、この若さを100%応援します。いまこそ、このエネルギーをつかって、みんなで共に、パンデミックの中でも可能な信仰の分かち合いの場を探し求めてみましょう！

神との出合いの場としてのサマーキャンプというチャンスは、黙想の家だけではなく、日常生活の場での出合いやイ

ンターネットを介しての出会いはよっても巡ってくるはずですが、若い皆さんの神との出合い体験の分かち合いが、それを聴くすべての人を力づけ、勇気づけ、希望をもたらすと信じています。今年も、特別なサマーキャンプを試みてみませんか？黙想の家ではない日常の場や、リモートでの集いを用いて、これまでとは違うスペシャルなキャンプ（神と人との出合いの場）が実現出来たら幸いですと思っております。感謝をこめて！

二〇二一年七月二十六日

カトリック那覇教区長

ウエイン・バートン司教

青少年担当司祭

ヨアキム・ホアイ神父

## 訃報

### ◆与那原教会

アルベルト 徳村 政英 様  
2021年7月4日帰天 享年81歳

### ◆泡瀬教会

テレジア 井手 登美子 様  
2021年7月25日帰天 享年87歳



葬祭の  
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏掘町4-57-3  
TEL&FAX:098-885-8205  
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>  
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間  
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～  
そうてんしゃ

## 葬 典 社

- \*創業30数余年・・・。
- \*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
- \*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ  
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間  
受付

てんごく  
☎098-853-1059

